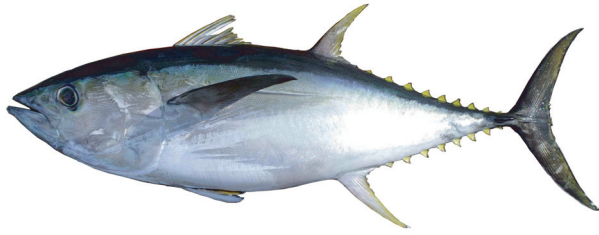


# メバチ インド洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*



## 管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

## 最近一年間の動き

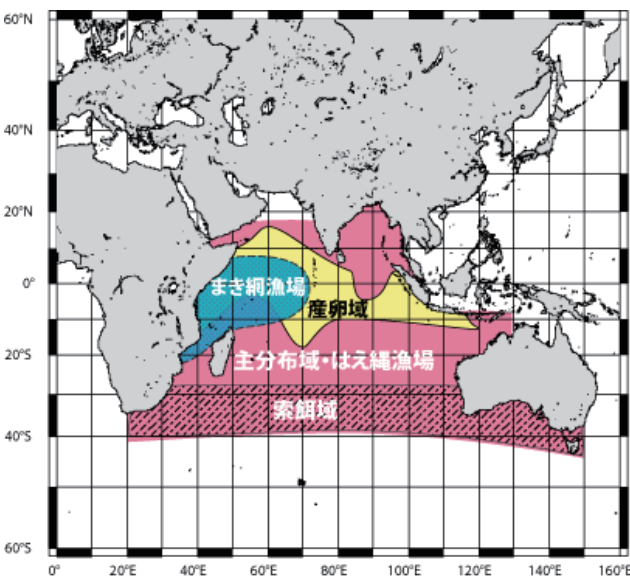
総漁獲量は1999年のピーク(15万トン)から年々減少傾向にあるが、2005年(11.4万トン)は2004年(13万トン)に比べ、総漁獲量の1割以上にあたる1.6万トンもの大幅な減少となった。減少の一つの理由には、西インド洋におけるキハダ大量漁獲により、漁獲努力量がキハダにシフトしたことがある。

## 生物学的特性

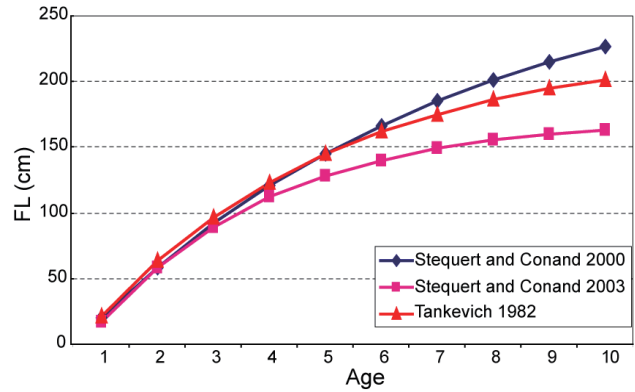
- 寿命：10～15歳
- 成熟開始年齢：3歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：4～9月に南半球温帯域に現れるほか、温帯域と熱帯域を複雑に回遊
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

## 利用・用途

刺身や缶詰原料



インド洋のメバチの漁場



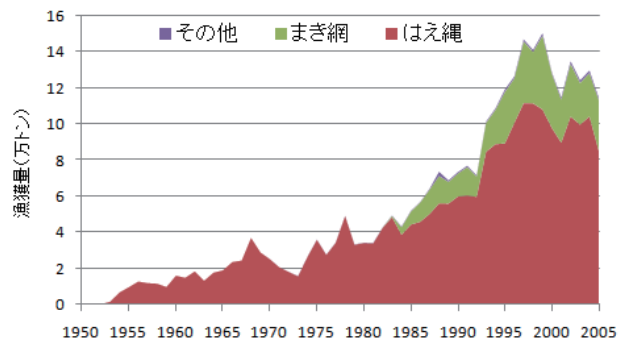
インド洋メバチの成長式(Stequert and Conand 2003)

## 漁業の特徴

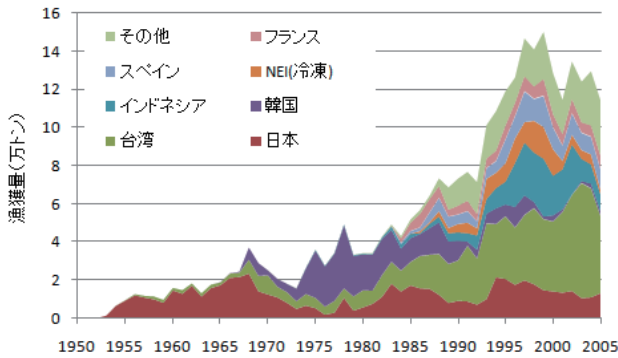
本種ははえ縄(2歳以上対象)とまき網(0～1歳対象)で主に漁獲される。本資源の漁業は、1952年にジャワ島南部海域で日本のはえ縄漁船が開始した。その後、台湾・韓国・インドネシアのはえ縄漁船がそれぞれ1954・1965・1973年から参入した。最近10年の漁法別総漁獲量は、はえ縄が7～8割、まき網が2～3割となっている。まき網開始(1984年)前は、大半の漁獲は2歳魚以上であったが、まき網開始後、0～1歳の漁獲尾数が急増し、最年では総漁獲尾数の7割近くを0～1歳が占める。

## 漁業資源の動向

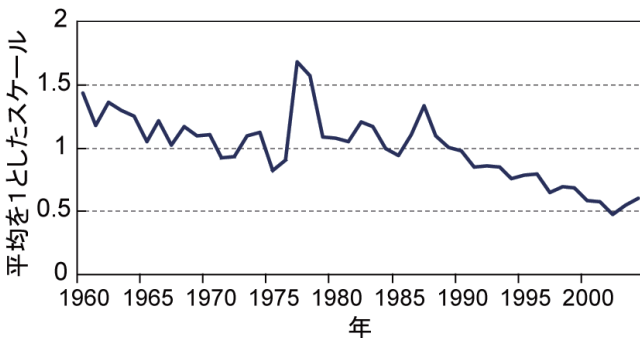
はえ縄による漁獲量は、操業開始以来緩やかに増加し、1978年に4.9万トンに達した。その後は1992年までは、3.3万～6.1万トンの間で増減したが、翌年から急増し、1997年には11.2万トンのピークに達した。しかし、1998年からは減少傾向にあり、2005年には8.5万トンになった。一方、まき網漁業は1984年より西部インド洋で本格的に始まり、漁獲量は徐々に増加し、1999年には4.1万トン(ピーク)に達したが、その後減少し2005年には2.8万トンとなった。まき網の主要漁業国はスペイン・フランスである。総漁獲量は、1986年までの6万トン以下から徐々に増加し、1993年に10万トン台、1999年に15万トン台(ピーク)に達した後、2000年から減少傾向が続き、2005年には11.4万トンになった。



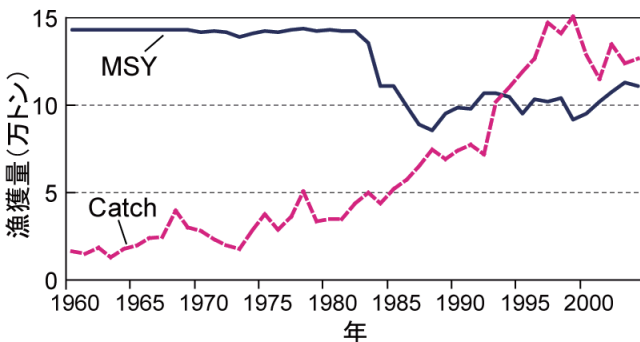
インド洋メバチ漁法別漁獲量



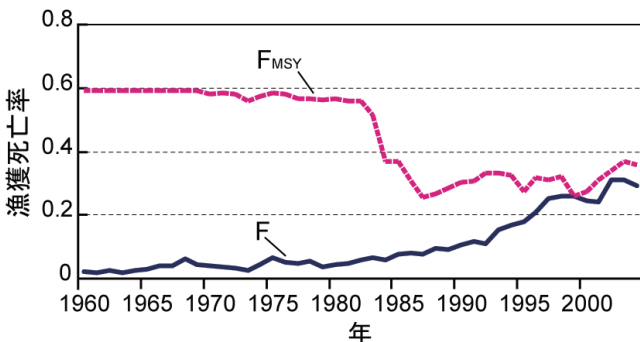
インド洋メバチ国別漁獲量



標準化された日本はえ縄 CPUE のトレンド(Okamoto et al. 2006)



インド洋のメバチ総漁獲量と MSY レベル



ASPM で推定されたインド洋のメバチの F (漁獲死亡率) と F<sub>MS</sub>

**資源状態\***

本資源の評価は、1998 年以前は IPTP (インド洋・太平洋まぐろ開発管理プログラム)、1999 年以降は IOTC で、プロダクションモデル、はえ縄 CPUE 解析、VPA (コーホート解析)、ASPM (年齢組成プロダクションモデル) などで行っている。2006 年の IOTC 第 8 回熱帯性まぐろ作業部会では、ASPM で 1960~2004 年のデータを解析した結果、MSY

は 11.1 万トンと推定された。漁獲量は 12 年間 (1993~2004 年)、最大 4.0 万トンも MSY レベルを超えた状態が継続し、過剰漁獲状況であった。しかし、2005 年には 11.4 万トンにまで急減しほぼ MSY レベルに落ち着いた。

**管理方策\***

メバチの資源管理方策として、全漁業 (はえ縄・まき網が大半) の漁獲量を MSY レベルまでに削減、漁獲努力量は 2004 年レベルを超えない、FADs を利用したまき網漁業の漁獲努力量を削減、台湾の漁獲割当 3.5 万トン、貿易制限措置、貿易統計証明制度といった 5 点がある。一般的な管理方策として以下の項目が決議として採択されている。IUU 漁業廃絶、混獲緩和、洋上転載オペレーター乗船(2008 年 8 月より)、VMS 搭載義務 (2007 年 7 月より)、漁船数(24m 以上)増加禁止、他国漁船の受入制限、はえ縄船トリポール使用(南緯 30° 以南)、漁船登録: IMO 番号追加、まき網船ログブック最低情報収集の義務、漁獲努力量(実操業隻数)の凍結、24m 以下の小型船へのポジティブリスト適用。

**資源評価まとめ\***

- ASPM により MSY 11.1 万トンと推定
- 1993~2004 年において MSY を越えた過剰漁獲
- FADs 使用のまき網で小型個体の過剰漁獲の懸念

**資源管理方策まとめ\***

**[メバチ資源管理]**

- 漁獲量を MSY レベルまで削減
- 台湾はえ縄漁獲割当 (上限 3.5 万トン)
- 漁獲努力量は 2004 年レベルを超えない
- 貿易制限措置
- 貿易統計証明制度

**[一般管理項目]**

- IUU 漁業廃絶
- 混獲緩和
- 漁獲努力量(実操業隻数)の凍結
- 洋上転載オペレーター乗船(2008 年 8 月より)
- VMS 搭載義務 (2007 年 7 月より)
- 漁船数(24m 以上)増加禁止
- 他国漁船の受入制限
- はえ縄船トリポール使用(南緯 30° 以南)
- 漁船登録: IMO 番号追加
- まき網船ログブック最低情報収集の義務
- 加盟国等は、自国民が IUU 漁業に関与しないよう必要な措置をとる。

**メバチ(インド洋)の資源の現況(要約表)**

資源水準*	中位
資源動向*	減少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	11.5~13.5 万トン 平均: 12.4 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1.1~1.4 万トン 平均: 1.3 万トン

(\*)主に 1960-2004 年の情報を用いた資源評価結果に基づく